

会 議 録		
会議名	令和7年度 山陽小野田市男女共同参画審議会（第2回）	
開催日時	令和8年3月23日（月）14：00～16：00	
開催場所	Aスクエア会議室2	
出席者	末永 育恵、池田 直美、小濱 富美代、白石 洋志 大本 章男、林 絹江、吉岡 忠司、大木 雅子 磯谷 美津子、堤 千佳子、山本 俊則、佐々木 龍	委員数 14名 出席者数 12名 委任状 1名
欠席者	前 尚貴、小柴 久子	
事務局等	協創部長 篠原 正裕、 協創部次長 河上 雄治、 市民活動推進課 主幹 安藤 知恵、 市民活動推進課 主任 田邊 碧	
会議次第	1 開 会 2 辞令交付 3 部長あいさつ 4 自己紹介 5 会長・副会長の選任 6 議 題 第5次さんようおのだ男女共同参画プラン策定に係る市民及び事業所アンケートの結果について 7 閉 会	
会議内容 （要旨）	<p>議題 第5次さんようおのだ男女共同参画プラン策定に係る市民及び事業所アンケートの結果について</p> <p>【事務局より、市民アンケートの結果について説明】</p> <p>（委員） グラフの白抜きの文字は読みづらい。 （事務局） 見やすいように修正する。</p> <p>（委員） 問16は唐突な質問のような気がするし、それに関連した他の設問もない。設けた意図は何か。 （事務局） 性に関する設問数は1つで少ないが、性自認や性的志向についてどのくらいの方が悩まれているか把握し、その結果を第5次プランに反映したいため、アンケートに含んだ。</p> <p>（委員） 回答者は60代、70代が多い。30代、40代といった若い世代のほうが男女共同参画に興味をもっているのではないかと思っていた。男女共同参画に限らず、市が行っている他のアンケート調査でもこういう傾向か。 （事務局） 個人的な感覚であるかもしれないが、全体的に50代以上の年代の回答率が高い傾向にある。アンケート調査が来たら回答しないといけないという意識を強くもっておられるのがその年代だと思う。しかし、このアンケートにおいては30代、40代も比較的協力された方が多かったように思う。</p> <p>（委員） web回答より浸透すれば、若い世代の回答率も上がるのではないか。 （委員） 無作為抽出ということだが、行政に携わっている人がどのくらいの入っているかというのはわからないのか。 （事務局） わからない。</p> <p>（委員） 女性の参画について、行政の取組は。 （事務局） 第4次プランの中で「市政における女性の参画の推進」を施策の一つとして挙げており、この中で平成27年4月1日施行の「審議会等の設置及び運営等に関する指針」において、委員の構成比率が男性または女性のいずれかに偏ることがないように、男性及び女性の割合がいずれも構成数の</p>	

30%を下回らないよう努めることと規定をしていることを述べている。令和4年4月現在で各種審議会への女性の登用率は33.0%となっている。また、具体的な取組としては人事課の「各種審議会等委員の積極的な女性の登用率を図ります。」や企画課の「市民意見公募（パブリックコメント）制度活用による多様な主体の市政への参画機会を促進します。」の2つを挙げている。

【事務局より、事業所アンケートの結果について説明】

（委員）アンケート結果は事業所に配布したのか。

（事務局）回答結果の提示は、本日の審議会が初めてであるため、まだホームページ上でも公開はしていない。また、事業所へ発送する予定はない。

（委員）できることであれば、啓発という意味でも事業所に発送するべきではないか。

（事務局）男女共同参画については、事業所に限らず市民の皆様に対しても広く周知していかなければならないと考えている。市全体の男女共同参画意識の醸成を図りたいため、第5次プランが完成したら周知にも注力していきたい。

（委員）事業所200社はどのような選定か。行政や学校は入っていないのか。

（事務局）山陽商工会議所、小野田商工会議所に加盟されている企業から無作為に抽出したので、民間企業ということになる。

（委員）審議会等の女性の登用の話に戻るが、審議会の指針の「男性及び女性の割合がいずれも構成数の30%を下回らないよう努める」という表現は、ネガティブな表現のような気がする。「上回る」という表現にはならないものか。

（事務局）第4次プランでの記載は、「審議会等の設置及び運営等に関する指針」をそのまま引用しているが、御指摘の部分は検討課題としたい。

以上